

あさりせし浦を見しかばわたつうみの磯のはまぐり色こかりしを

右 としの内にときをうしなふもの

ひととせに夏なしとだに思ひては開○下

左のいふやう、年の内に時をうしなふ物とあるは、あつくるしきほどなれば、くだ物はなつなしと思ふにやあらむ、右のいふやう、わたのはらの戀ぢは、あま人もすそまぼるはまぐりなどいひて、これもかれも心ゆきいとおかしぢ。

左 なぞおと、ひよりうそぶきかたにいとほるゝもの

千早ぶる神のやり水よどなれてけふみかはちのおそろしき哉

右 はきものならべたるいのりのし

はき物もふたつならべてつとめこしくつゝほうしいづこ成らむ

左のいふやう、はきものならべたるいのりのしは、夏の末秋のはじめに聲するくつゝほうし歟、右解難かりとぞうけ日古天たの事を○右以下恐有誤字こゝろよくときやらすか、れば

左みかは地とくかちぬ、

左 なぞおほそらにつはものゝきたる

弓はりのかたとの月を山のはにそらつはものゝ、いるかとぞみる

右 なぞあてならぬたき物

繼連歌

〔明月記〕嘉祿二年二月十日、午時許參大納言殿北邊大宮少時知家卿參入、信實朝臣、家長朝臣等在御前、被尋頭中將未時許參入著直衣、即以清定爲講師、被讀上三首題、訖有連歌賦何乎何乎、自然及五

十韻、乘月退出、

〔宣胤卿記〕文明十三年五月五日己卯、顯乘來、今日繼連歌付侍從中納言禁裏可書進之由、以彼卿先